

エフピコレポート2021



株式会社 エフピコ



CONTENTS

- ◆ トップメッセージ
 - ◆ 企業プロフィール
 - ◆ エフピコのバリューチェーン
調達 マーケティング 製品開発
製造 物流 販売 リサイクル
 - ◆ ESG のエフピコ
E (環境) S (社会) G (ガバナンス)
- ・ データで見るエフピコ
 - ・ エフピコのあゆみ
 - ・ 社会的な評価

食品トレー・容器の製造・販売事業におけるエフピコの 現場主義・顧客第一主義

人々のニーズや社会の価値観などに沿った真に有用な製品を生み出し続けることを目指し、エフピコは「現場主義」と「顧客第一主義」を貫くことを掲げています。食品トレー・容器が使用される現場、販売される現場、そして製造・保管・輸送・納品される現場において重要なことは何か、求められることは何かを考え続けることにより、たゆまぬ進歩を続けています。

エフピコは皆様のご協力をいただき 地上資源循環型リサイクルを推進します

エフピコは消費者の皆様、スーパーマーケット様、包材問屋様と一体となって地上資源の循環型リサイクル活動を推進しています。豊かな食文化の創造とともに持続可能な社会の構築に大きな役割を果たしていくことを目指し、取組みを進化させます。



代表取締役社長
佐藤 守正



FP CORPORATION

社会全体が新しい局面への対応に迫られている時、
勇気を持って積極的に動き、進んで行く。
「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」
「どこよりも競争力のある価格で」
「必要な時に確実にお届けする」
という理念の追求は、
どのような時でも立ち止まることはありません。

人々の生活スタイルの変化に伴い、経済や産業の構造も変化を続けています。このような時こそ変わらぬ企業理念の下、受け身にまわるのではなく、変化を能動的に捉えて進んで行くことが重要と考えています。

2020年度はコロナ禍での生活に対応した製品やデリバリー・テイクアウト需要へしっかりと対応しつつ、私たちの果たすべき社会的役割と価値の提供を改めて深く認識し、努力を重ねた1年でした。

激動の時のなかで動き続けてきたエフピコの姿を本レポートでご覧いただければ幸いです。

会社概要

商号 株式会社エフピコ
 設立 1962年(昭和37年)7月
 代表者 代表取締役社長 佐藤 守正
 資本金 13,150百万円
 社員数 944名(エフピコグループ：4,753名)
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
 福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
 新宿オークタワー(総合受付36階)
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



福山本社(広島県福山市) 東京本社(東京都新宿区)

 ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

エフピコグループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道
 株式会社エフピコ山形
 株式会社エフピコ茨城
 株式会社エフピコ八千代
 株式会社エフピコ下館
 株式会社エフピコ筑西
 株式会社エフピコ富山
 株式会社エフピコ中部
 株式会社エフピコ笠岡
 株式会社エフピコ福山
 株式会社エフピコ神辺
 株式会社エフピコ九州

株式会社エフピコ鳥栖
 エフピコダックス株式会社
 エフピコ愛パック株式会社
 エフピコアルライト株式会社
 エフピコグラビア株式会社
 西日本ペットボトルリサイクル株式会社

物流

エフピコ物流株式会社
 株式会社アイ・ロジック
 エフピコイーストロジ株式会社
 エフピコウエストロジ株式会社

販売・その他

エフピコ商事株式会社
 エフピコチューパ株式会社
 エフピコダイヤフーズ株式会社
 エフピコインターパック株式会社
 エフピコイシダ株式会社
 エフピコ上田株式会社
 エフピコみやこひも株式会社



生産工場、リサイクル工場、物流施設などが集積した拠点(左から福山、中部、関東)

主な製造・販売製品

汎用 サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能



エコトレー(リサイクル製品)

鮮魚 新鮮な海の幸の魅力を引き立てる



寿司 新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ



米飯 サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能



精肉 衛生的で肉の旨味や色味も引き立てる



惣菜 電子レンジ対応などで扱いやすい



クリアパッケージ 透明な容器が鮮度も美味しさも伝える



催事 人が集まる楽しい催事に最適



フードパック 衛生的で便利な機能を付加



その他 紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など



エフピコのバリューチェーン

循環し繋いでゆく事業運営とESG活動を一体で進める
 “エフピコの循環型価値創造”

ESG活動を実現するエフピコのバリューチェーンは「資源循環」と「マーケティング循環」により社会的価値を生み出し続けています。



専務取締役
 SCM本部本部長
 兼 情報システム部管掌

安田 和之

“食品容器の製造、販売、リサイクルを行っているエフピコは一連の事業を通して様々な価値創造を続けていますが、それを実現しているのは7つの部門が有機的に繋がって生み出されるバリューチェーンです。このバリューチェーンは、貴重な地球資源を無駄にしないための資源循環と製品の付加価値を高めるためのマーケティング循環という二つの側面を持っており、この二つを同時に実践しています。”

エフピコのバリューチェーンを回し価値創造を行う中心的な役割を果たす

サプライチェーン・マネジメントシステム(SCM)

サプライチェーン・マネジメントシステム(SCM)はエフピコが展開する食品容器製造・販売事業の心臓部と言えます。どの製品をいつ、どこで、どれくらい製造し、どこへ運ぶかということ計画する意思決定を行うSCMはコンピューターと人間の経験値をお互いに補足し合いながら運用されています。最も効率的で無駄のない生産と物流を計画・実践し、その精度を常に高めています。



■AI導入による高精度の追求

SCMが打ち出す生産予測の精度を確実に上げるために、数年前から人工知能(AI)を導入し、検証を進めています。数値の精度が高まったことにより人による検討作業などの削減が可能となりました。AIの導入は人手不足対策としても有効です。





安全かつ社会的に認められた素材の調達

エフピコグループの「行動憲章」と「環境方針」の両方に従った「CSR調達方針」を設定し、世界的安全基準であるFDA(米国食品医薬品局)のオピニオンレター(No Objection Letter)を取得するなどを実践しています。

エフピコCSR調達方針

1. 品質本位

お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

2. 公正な取引

経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

3. 法令等遵守

調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

4. 社会的課題への配慮

基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

5. 環境への配慮

当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

6. サプライヤーとの協働

調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。



常務取締役
商事本部本部長 小川 浩嗣

調達する素材は、お客様の環境問題に対する高い意識から多様化してきています。紙やパルプ、バイオマス素材など非石化型原料などお客様の要望に応えられるように準備していきます。素材調達と言っても決して受け身の部署ではなく、バリューチェーンの資源循環の出発点として全ての工程を俯瞰して見ながら、必要かつ良いものを確実に調達できるよう積極的に情報収集をしています。

また、昨年発表しましたDIC株式会社様とのケミカルリサイクルの共同研究の様に、お取引先様とも協業しながら調達における付加価値を上げていくことも行っています。

ケミカルリサイクルによるさらに環境に優しい素材の研究

現在エフピコが行っている使用済み発泡スチロール製のトレーリサイクルは、左ページの写真のようなパレット(PS樹脂)というプラスチックシートに成形する前の素材を製造するスタイルの“マテリアルリサイクル”と呼ばれる方式です。しかし製品の製造工程のひとつ前のスチレンモノマーという素材の製造まで工程を遡ることができれば、今までリサイクルしてきた白トレーだけでなく、色柄トレーのリサイクルも可能となります。この方式は“ケミカルリサイクル”と呼ばれ、現在エフピコではDIC株式会社様との協働によりその実現に向けて研究を行っています。

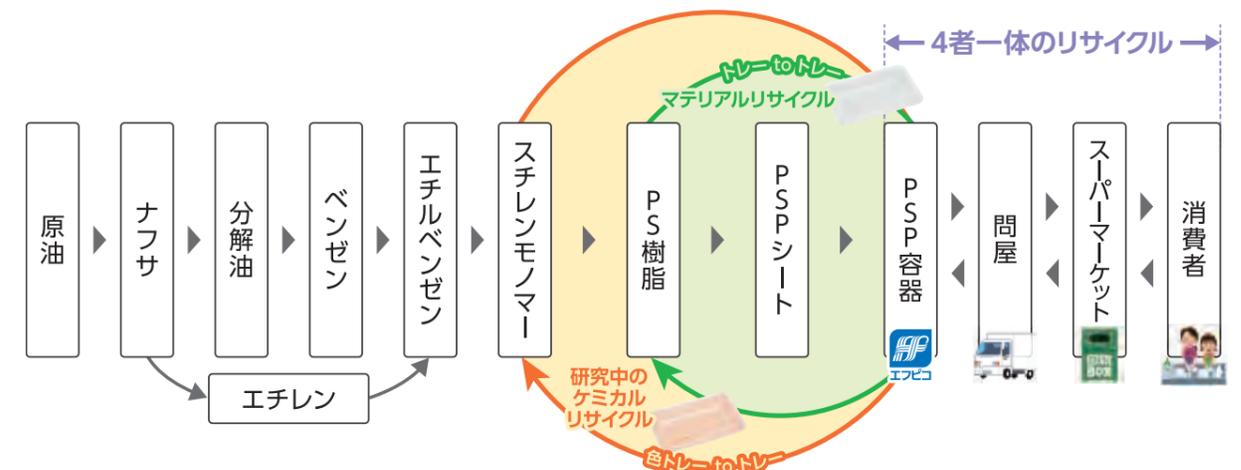
使用済み製品も原材料素材



関東、中部、福山の生産工場では、使用済み容器が全国各地から集められるリサイクルセンターを併設し、リサイクル素材を使ったエコ製品を製造しています。左の写真は使用済み容器をリサイクルしたパレット。



リサイクル素材のパレットから製造したエコトレー。エコマークが刻印されています。





“顧客第一主義”を実践する活動

マーケティングは調達した素材を製品に形づくっていく第一歩ということになります。その初めの一步の先にあるのはお客様のニーズです。まずはお客様が必要としている、求めているものを把握し、それに対して製品という形で提案するために情報を整理するのがエフピコのマーケティング活動です。

マーケティング活動の中で得る情報は、日々お客様とダイレクトに接している営業スタッフから得るものが最も重要となります。“顧客第一主義”とともにエフピコが掲げる“現場主義”は、現場（食品の小売店舗など）で得る情報が製品やサービスの提案のキーとなるアイデアに繋がるという考え方です。また同時に社会情勢や市場のトレンドなども考慮することが必要であり、高齢化や健康志向など社会のニーズに関する情報へのアンテナを高くしておくことが欠かせません。



後述の「エフピコフェア」において実施したコンセプト展示のひとつ。コロナ禍における商品開発をエフピコの容器を使いテーマに沿って提案しています。

現在は食のライフスタイルの多様化が非常に進み、今までのようにスーパーマーケット様などの小売店での現場対応という枠にはまらない要望が増えてきています。大きな視点で世の中の動向を探り、どのような容器やサービスが求められているのかを知ることで先手を打って製品開発をしていくのがマーケティングの目的です。これからはSNSを活用するなど情報の集め方も大きく変わってくるのではないかと考えています。これが、エフピコのバリューチェーンに「マーケティング」という概念が新たに加わった理由のひとつです。

執行役員
マーケティング部
ジェネラルマネージャー **前田 知司**



価値創造型営業(チームX)

エフピコが実践する価値創造型営業とは、食品メーカー様などと協力し合い、お客様（スーパーマーケットなど）にとって付加価値の高い商品を開発して販売する営業スタイルです。エフピコの容器が持つ高い機能性により食材の良さを引き出すことで、お客様ひいては消費者の方々にメリットをもたらすことを狙っています。図の例のように家庭にある食材を加えて料理を仕上げる容器入り食品を“プラスデリ”と名付け、忙しい毎日の生活のなかでもできるだけ新鮮で美味しいものを食べたいと願う方々へのひとつの提案となる商品を開発しました。



こうした取組みについては後述の「エフピコフェア」においても複数の企業様との共同で展示を行っており、来場のお客様に紹介をしています。販売促進のひとつの方法として参考にさせていただいている毎年好評のプログラムです。

マーケティング活動の集大成「エフピコフェア」の開催

「エフピコフェア」は全国からスーパーマーケット、コンビニエンスストア、惣菜販売店、包材問屋などの方々にいただき、新製品、容器の使い方、容器を活用しての売り場づくりなど様々な提案を行う年に一度のプライベートショーです。このフェアの最大の特徴は、会場内にスーパーマーケットなどの食品売り場を再現していることです。お客様が普段仕事をしている環境の中でエフピコ製品をどのようにして活かせるのかを仮想体験していただくと同時に、製品展示の説明で情報として持ち帰っていただくことを目的としています。お客様は会場内で自由に展示を撮影し、エフピコ社員に説明を求めることができます。



毎年、東京ビッグサイトを会場として3月に3日間開催していますが、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年の約半数のお客様を予約制でお迎えしました。南館の1、2ホールを使い、密にならないゆったりとしたレイアウトにするという配慮を行いました。



会場内は米飯、鮮魚、精肉、青果、寿司、温惣菜、テイクアウト・デリバリーなどのカテゴリーに分けて展示を行い、それぞれのシチュエーションに合った製品と製品を使ったアイデアの展示を揃えました。



2021年はテイクアウト・デリバリーという新しいカテゴリーを設け、新型コロナによる昨今のニーズに応える内容の展示を行いました。デリバリー商品(食品)のパック時、デリバリー時、そして配達後の食事の時にそれぞれ特長を発揮する容器の性能を分かり易く表現しました。



展示した製品には全てアルファベットと数字を組み合わせた4桁のコードが記載されており、お客様はこのコードを伝えるだけで製品のサンプルを後日受け取ることが出来るシステムとなっています。





製品開発

価値を製品という形にする

バリューチェーンのなかで製品開発部門が担っているのは販売、製造、物流などの現場から上がってくる様々な声を形にしていくことです。そして最も大切なのは、製品が価値創造を具現化していることです。消費者の方々には汁漏れしにくい、お客様には陳列し易い、物流にはたくさん運べるなどの利便性という価値が提供されていなければなりません。毎年数百点のモデルチェンジや新しい製品の開発など、製品が持つたくさんの側面に気を配りながら、価値創造の根幹となる作業を地道に行っています。



新型コロナウイルス感染症の影響で最近ではスーパーマーケットでの買い物需要が高まり、マイバックを使う方が増えています。するとバッグの中で汁漏れしない容器の需要も高まるのです。汁漏れしにくい容器は以前からありましたが、その精度を上げつつ、閉じやすく開けやすいという機能も維持するのは決して簡単ではありません。こうしたリクエストに応えるのが製品開発部の仕事です。エフピコには数千種類もの容器がありますから、大変ハードな仕事内容ですが、消費者の方やお客様から評価の言葉をいただいた時は、我々の努力が形となっていることを改めて噛みしめています。



執行役員 生産本部副本部長 西地区担当 兼 総合研究所ジェネラルマネージャー 村岡 広行



開発者の視点を形にする

営業部門からのリクエストや提案を基に製品の開発をすることがほとんどですが、製品開発部のスタッフのアイデアを営業部門に提案することもあります。最近の例ではインスタ映えするカラフルで楽しい雰囲気でのテイクアウト容器を提案しました。開発に携わる人間からすると、「こんなことも出来るのに…」という気持ちが湧くこともしばしばあるのです。この容器は見た目が楽しいだけでなく、蓋を開ける時や食べる時にもひと工夫があります。近いうちにテイクアウトの店舗で使われるかも知れません。



上蓋の裏側には小さい突起がたくさんあり、開けた時に水滴が落ちにくい工夫がされています。

上蓋を簡単に手で切り離すことができ、食べる際に邪魔にならないようにもしています。

エフピコが提供する様々な高付加価値製品

エフピコの食品容器が提供する付加価値には消費者の方々には利便性を提供するもの、食品を販売するお客様にとって便利なものなどがあります。最近ではテイクアウトやデリバリーで重宝される容器も多く開発しています。

■電子レンジ対応

電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）を持つほか断熱性、保温性にも優れた容器。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



■耐油性に優れている

耐熱性が高いだけでなく耐油性にも優れた透明容器。MCT油脂等により脆化せず、破損しません。電子レンジで温惣菜をそのまま加熱することもできます。



■水分が漏れ難く開けやすく閉めやすい

容器が傾いても水分がこぼれない十分な気密性を持つ容器。閉まった時にパチンと音が鳴り、外れ難く開けやすい構造を実現しています。



■中身がずれない

底に食品を配置しやすくするための枠やガイドの凹凸を付けた容器。店舗スタッフが陳列する時、お買い上げ後の持ち帰り中でも中身がずれにくい容器。



■重厚感とシャープな形状を実現

成形性に優れた非発泡素材を使用し、複雑でシャープな形状のデザインを可能にした容器。非発泡素材なのでスタック性に優れておりバックヤードで省スペースです。



■メニューの組み合わせが可能

ご飯類と汁気の多いおかずを別々に包むことによりそれぞれの美味しさや食感を損ねることなく提供できます。「煮物弁当」という新しいジャンルも実現。



■環境への配慮

使用済み容器をリサイクルして製造した「エコトレー」など。PETボトルをリサイクルした透明容器も製造しています。



デリバリー・テイクアウトビジネスとのコラボレーション



コロナ禍においてデリバリーやテイクアウト用の容器需要が高まっているところですが、この業界用の容器開発に力を入れ始めたのは2019年のことです。消費税の軽減税率制度を控え、テイクアウトが伸びるだろうと予測しました。

すぐに宅配デリバリーサイトの『出前館』様と協業し、テイクアウト・デリバリー専用容器「DLVシリーズ」を開発したのです。飲食店のテイクアウトやデリバリーは調理後の30分が勝負です。温かいものを食感を変えずに、スープなどもこぼれることなく、美味しいままお客様に届けるという条件を全てクリアするのがDLVシリーズです。そしてその構造は下にスープやご飯、その上に麺やおかず、その上が密閉性の高い蓋という具合に、美味しいものをそのまま食べて欲しいという料理の作り手の思いもお届けできるものとなっています。

出前館様との協業に続き、大手うどんチェーン様ともうどんメニュー用の容器開発で一緒させていただきました。その後は新型コロナウィルス感染症が拡大するに従って様々なテイクアウト・デリバリー業種の方々にご利用いただいています。コロナ後も家庭での食事習慣は続くと考え、テイクアウト・デリバリー容器の機能性をさらに高めていく予定です。



執行役員
容器開発部ジェネラルマネージャー

横山 和典



ものづくりを守るひとづくり

生産工場働く社員の育成を目的とした「ものづくりプロジェクト」を中心とした様々なプログラムを設け、生産の現場で働く上で必要となる技術と知識の習得および心構えなどの習得を図っています。「技能塾」はそうした活動の一環です。その研修プログラムの修了レベルにより生産工場働く作業員には帽子に色のラインが付きます。レベルは黄色、緑、青、赤と順に上がっていき、社員のモチベーションアップにも繋がっています。



障がいのある社員の活躍

折箱容器の製造作業は手作業での組み立てが必要であり、障がいのある社員が活躍する職場となっています。また大量生産する大きな工場には向かない小ロットの製品の製造なども担当しています。



創業時からエフピコはものづくりを続けている会社です。良く言われるようにそれは“人づくり”でもあります。SCMの運用やロボット化が進むのは良いことですが、それを操作する作り手も同時に進歩しなくては良い製品はつくれません。オートマチックの自動車に慣れるとマニュアル車の運転が出来なくなってしまう例のように、工場の操業もいざという時には人の手で動かす知識と経験が必要なのです。そんな人材の育成を目的に、研修用の生産工場を稼働する計画を立てています。達成すべきは効率化だけではなく、つくることそのものを進化させることであると考えています。



専務取締役 生産本部本部長 永井 信幸

ロボット化による効率化アップと人手不足対応

効率化を高め人手不足を解決する方法として生産の現場でのロボット化を進めています。製造された製品の袋詰め、箱詰め、重量の計測、箱の移動など多くの作業工程が自動化されています。2020年度はロボットによる作業自動化により約6,000時間の人による作業時間を削減しています。



- 1 裁断された製品を自動包装機でポリ袋に包装し、コンベアで自動送り。
- 2 ポリ袋に入った製品をアームロボットが段ボールケースに箱詰め。
- 3 製品をケースごと計量ロボットが数センチ持ち上げて重量を確認。
- 4 ケース詰めされた製品を無人搬送車 (AGV) に載せてコンベアまで移動。
- 5 ケースはコンベアに載せられて集積所へ。
- 6 集められたケースをアームロボットがパレットの上に積み上げ、倉庫での保管準備が完了。



生産から納品までをシームレスに繋ぐ自社物流

「物流」はサプライチェーン・マネジメントシステムの一環として自社物流で展開しています。エフピコ製品の製造と販売に関わる全ての物流活動を自社で展開することにより、調達から製造、販売、そしてリサイクルまでを一元管理のもとシームレスで高度



に効率的な業務遂行を実現しています。エフピコの物流部門は製造の際に必要な金型の工場間移送、製造した製品の在庫管理、保管した製品を倉庫間で融通し合う横持ち、自社製品と他社商品を詰め合わせするピッキング、包材問屋やスーパーマーケット等のお客様への納品、さらには回収ボックスに集められた使用済み容器の引き取りまで全ての物流活動を担っているのです。これがエフピコの物流の最大の特徴であり強みにもなっています。



製品の安定供給を実現し続けるため、施設や設備のアップデートを常に計画・実践しています。エフピコグループ全体の物流への需要を見て、九州、福山、中部と倉庫の拡張を進めました。中部の拠点で新設しているクロスドックセンターも各地で展開していますが、積み込みの自動化は効率性を大幅にアップします。また、無人フォークリフトは業界内でもまだ新しいロボットですが、いち早く導入を決めました。人手不足を補う確実な戦力となっています。中長期的な計画をフレキシブルに実行していくことが製品の供給を途切れさせないために必要なのです。



エフピコ物流株式会社 代表取締役社長
兼 株式会社アイ・ロジック 代表取締役社長

小泉 哲

物流サービスの質と量を常に進化

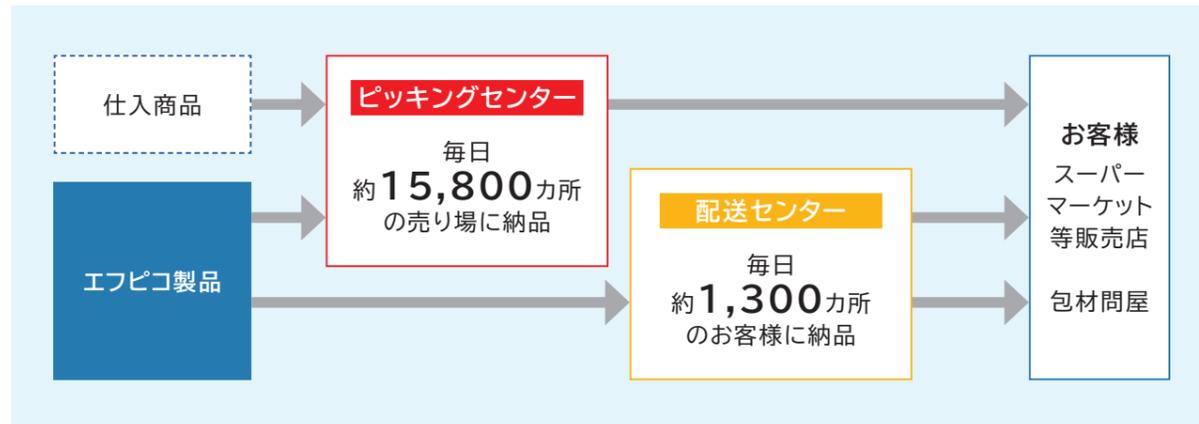
「物流」はモノを運ぶだけの仕事ではなく、お客様に高い満足度を提供するサービス業であるという考えの基に展開しています。必要とされるものを必要とされる時間までに確実にお届けするため、施設の拡充や新しいシステムの導入など、ハードとソフトの両面において進化を続けています。今年度も配送センターの増床やロボット化、パレット輸送化による作業時間短縮などを行ってきました。

在庫管理	ピッキング	拠点間輸送	配送
約12,000種類の製品を全国9カ所に配置された配送センターで管理。	お客様のオーダーに合わせて店舗ごとにエフピコ製品と他社商品を一緒に梱包。	製造に必要な金型の工場間輸送、受注製品の配送エリアの倉庫への横持ち移動等。	製品の包材問屋様等へのケース出荷、ピッキングされたケースのお客様への納品等。

		1 九州配送センター増床 (2020年10月)
		2 福山配送センター増床 (2020年12月)
		3 中部ハブセンター新設 (2021年10月完成予定)
		4 レーザー誘導でパレットを搬送して格納する無人フォークリフト (AGF)
		5 トラックへの積み込みと荷下ろしのパレット輸送化

2種類の物流拠点を全国展開

効率的な配送のためエフピコの物流拠点は全国に配置されていますが、大きく2種類の機能があります。ピッキングセンターは主に売り場単位での注文にお応えするための問屋機能を持つ拠点であり、エフピコの食品容器と他社の商品（割箸、袋類、ラップ類等）を合わせて梱包して出荷します。配送センターは倉庫機能を持ち合わせた、エフピコ製品をケース単位でお客様へ出荷するための拠点です。どちらも毎日、膨大な数のケースを高い精度で確実にお客様へお届けしています。



■ピッキングセンター

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 北海道ピッキングセンター（北海道石狩市） | 新潟ピッキングセンター（新潟県長岡市） |
| 東北ピッキングセンター（宮城県大衡村） | 中部ピッキングセンター（岐阜県輪之内町） |
| 関東ピッキングセンター（茨城県八千代町） | 関西ピッキングセンター（兵庫県神戸市） |
| 茨城ピッキングセンター（茨城県八千代町） | 福山ピッキングセンター（広島県福山市） |
| 八王子ピッキングセンター（東京都八王子市） | 九州ピッキングセンター（佐賀県吉野ヶ里町） |



■配送センター

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 北海道配送センター（北海道石狩市） | 中部配送センター（岐阜県輪之内町） |
| 東北配送センター（山形県寒河江市） | 関西配送センター（兵庫県神戸市） |
| 関東配送センター（茨城県八千代町） | 福山配送センター（広島県福山市） |
| 八王子配送センター（東京都八王子市） | 九州配送センター（佐賀県吉野ヶ里町） |
| 東海配送センター（静岡県長泉町） | |



音声ピッキング

ピッキング作業の正確性と効率化の精度を高めている音声ピッキングシステム。指示を耳で受けることによりハンズフリーで作業に集中できる環境を作ります。ミスは0.3ppm（100万分の3）と限りなくゼロに近づいています。



ロケーションマネジメントシステム

倉庫内の空間を最大限に活用するため、棚をフレキシブルに可動させるシステム。ボタンひとつで巨大な棚をゆっくりと動かし、ケースの置き場所を固定せずに空いたスペースを順番に利用します。300万ものケースを保管するエフピコでは必要不可欠な装置で、大規模物流倉庫には標準で整備されています。



無人搬送車 (AGV)

無人搬送車はあらかじめ引いた黒い線の上を設定通りのコースで動いていきます。配送センターに導入された作業のロボット化施策のひとつですが、倉庫スタッフが運転するフォークリフトの走行距離が約3分の1となり、人手不足に大きく貢献しています。



ソーターシステム

倉庫内から積み込みのトラックバースまでの長い距離をコンペアで繋ぎ、出荷作業の効率化と破損等のダメージ低減を実現しています。大量の出荷品を短時間で配送コースごとに自動的に仕分けことができ、ドライバーの待機時間の短縮にも繋がっています。



ルートプランナー

直近6カ月の走行データをベースに最も効率的な配送計画を作成するシステム。輸送トラックの全ての運行スケジュールとルートを設定しています。お客様からの受注の1時間後にはムダ・ムリのない配送計画を確定。また、受注から出荷・積み込みまでの時間短縮により、ドライバーの作業負荷も低減されています。



リアルタイムデリバリーチェックシステム

QRコードを使い配送開始から納品終了までの全ての状況をリアルタイムでモニターするシステム。配送センタースタッフだけでなくエフピコの営業スタッフも、納品状況をオンラインでリアルタイムに確認できるため、お客様からの問合せにスピーディーに対応することを可能にしています。蓄積された配送の実績データはルートプランナーの正確性向上のために活用されます。



SALES
販売

エフピコの価値提案型営業スタイル

“現場主義・顧客第一主義”を掲げ、お客様はもとより社会全体に価値を提供するために、店頭や実際に容器が使用される現場の方法を大切に、製品づくりの起点としています。現場で得た貴重な情報はマーケティング、製品開発、さらには物流、リサイクルなどの各活動にフィードバックされ、最終的には“お客様にとって有益な”製品とサービスになります。ただつくって売るだけでなく、製品やサービスを活用し“価値提案”までを行うのがエフピコスタイルです。



■現場への訪問頻度

食品販売の現場には様々なヒントやアイデアが隠されています。午前と午後、平日と休日、ハレの日、その日の天候などで売り場の様子は全く違います。エフピコの営業スタッフは現場への訪問頻度をより一層高めることで、様々な情報と知恵を会社へフィードバックしています。

■現場での観察

販売した製品がどのように活用されているのか、また消費者の方がどのように扱っているのか、その結果お店の売上げはどのように変化しているのかなど、様々な観点からの観察により気づきが得られるのです。



現場に繰り返し何度も足を運ぶ、つぶさに観察するなどは、エフピコでは当たり前のことになっていません。最近重きを置いているのは、“情報共有”とその情報を迅速に活用する“瞬発力”です。コロナ禍においても、変化する食品販売の形態に素早く対応しなければなりません。消費者の方々は、変化への対応が想像以上に速いのです。新たにスタートしたSNSも営業活動にスピードと瞬発力を与えることに役立っています。



専務取締役
営業本部本部長
兼 東日本営業統括部 統括マネージャー **高橋 正伸**

■情報の分析と共有

現場の観察から得た情報に対しては、様々な指針と照らし合わせて分析し、考えるという作業を行っています。ひとつ一つの情報に考え方の物差しを当ててみることで、その情報を活用する方法が見えてきます。例えば、あるお店のある商品で「パートさんの作業に時間がかかる」という課題があるとします。それに対しては、容器の形状、大きさ、蓋の開け閉めやすさ、汁漏れ具合などの指針で捉えるとともに、その先の消費される際の耐油性・耐熱性に至るまで、様々な角度で問題を捉えます。そうして見えてきた問題は社内ですピーディに共有され、それに対応する価値を創出することで次の有益な提案へと繋がっていくのです。

営業拠点

- 東京本社 (東京都新宿区)
- 福山本社 (広島県福山市)
- 大阪支店 (大阪府大阪市)
- 札幌営業所 (北海道札幌市)
- 仙台営業所 (宮城県仙台市)
- 新潟営業所 (新潟県新潟市)
- 静岡営業所 (静岡県静岡市)
- 北陸営業所 (石川県金沢市)
- 名古屋営業所 (愛知県名古屋市)
- 広島営業所 (広島県広島市)
- 四国営業所 (香川県高松市)
- 福岡営業所 (福岡県福岡市)

製品が持つ付加価値を基にさらなる価値の創造を目指して、製品とその使用環境との関係に注目した販売の提案を模索しています。同じ製品でもそれが使用されるシーンが変われば、異なる価値が生まれるケースもあります。視点や考え方を考えることで新たな価値を生み出すということも、現場での観察とその後の分析があるからこそ“気づき”から生み出される販売スタイルだと言えます。



常務取締役
近畿中四国営業統括部
統括マネージャー 小林 健治

提案型営業による価値の創造

■市場の“深掘り”

毎日大量の食品が販売されるスーパーマーケット、コンビニエンスストア、惣菜販売店様などの店舗では食品の販売スタイルもアイテムも固定化されがちです。そこで、当たり前を疑ってみることでスタートした販売方法の深掘りをしています。例えば、柔らかいみかんは型崩れによる劣化が付きものです。袋からエコ製品の透明容器へと変更することにより、環境への負荷を小さくしたままみかんの劣化を防ぎ、食品ロス削減にも繋げるといった価値を生み出すことができます。



■需要の“発掘”

病院給食、介護給食、冷凍食品などはエフピコの容器を活用した価値創造の可能性が多くある分野です。容器が持つ耐熱、耐油、簡単で確実な開け閉め、中身のずれにくさ、汁漏れしにくいなどの機能は、こうした分野でさらに活用していただけないかの思いで、需要の発掘努力を続けています。



■製品の“市場浸透”

コロナ禍で大きく需要が伸びたテイクアウトやデリバリー分野においては、飲食店経営の皆様との接点を増やし、多くの方にエフピコの容器の利便性を知っていただくことを目指しています。今まで接点がなかった個人飲食店、キッチンカーや最近増えてきているゴーストキッチンの方々に対して、右のページに掲載のSNSを活用してお伝えする活動を展開しています。

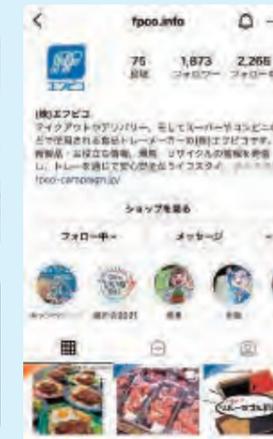


SNSで情報発信

社内でSNS活動の発案があったのが2018年。それから約2年の準備期間を経て2020年4月、本格的なSNS情報発信活動がスタートしました。営業スタッフがお客様に様々な提案をする際に紙の資料を使っていましたが、もっとたくさんの画像や動画がある方が理解し易いのではないかと考えたのが始まりです。それ以来、新製品の発売や営業活動のタイミングなどに合わせて情報を発信してきました。営業スタッフがお客様を訪問する前に製品情報などの動画コンテンツをお客様が見ることになり、ちょうどテレビコマーシャルによる予告編のような役割を持たせています。こうした取り組みはお客様からも好評で、それぞれのアカウントの登録者も順調に増えています。またSNSはお客様だけでなく消費者の方々とのダイレクトコミュニケーションが可能となったという利点もあり、容器についての感想をいただいたり、コラボ企画も行っています。SNSは今後さらに発展していく可能性を秘めた活動のひとつです。



LINE



Instagram



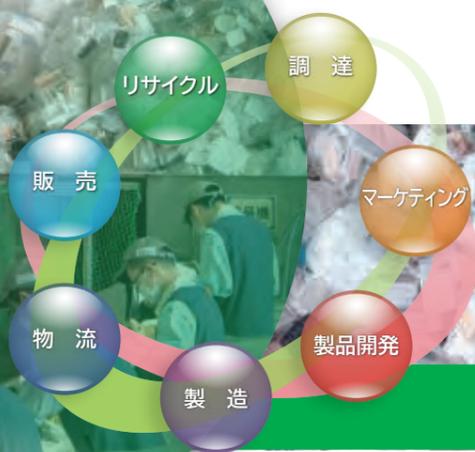
YouTubeのエフピコTV

SNSによる情報発信の運用を担当している営業企画部営業推進課の二人。「コンテンツ作りの作業は社内で行っています。毎日、企画や見せ方、どのようにしたら伝わるのかを考え、悩みつつも楽しく仕事をやっています」とこの仕事を楽しんでいる様子。社内外からのポジティブな“いいね”👍を励みに頑張っています。



大野 菜々

柳瀬 恭介



30周年を迎えた エフピコ方式リサイクル

一度使用した食品容器を原材料にして再び容器として蘇らせるリサイクルを1990年にスタートさせて30周年を迎えた今、このリサイクル活動は社会全体に浸透するまでになっています。どこの街のスーパーマーケットでも、使用済み容器を回収する緑色のボックスを見つけることができます。このリサイクル活動発展には様々な立場の方々からの協力が必要です。まずは使用済み容器を店頭回収ボックスにお持ちいただく消費者の皆様、その回収ボックスを設置していただくスーパーマーケット様、そして店頭からエフピコのリサイクル工場までの運搬を担当していただいている包材問屋様。全ての方々の協力があって初めてこの4者一体のエフピコ方式リサイクルは実現します。これからも皆さんの協力の輪を回し続けていきます。



リサイクルのキャパシティを増やすために透明容器のラインでのAI内蔵のロボット化を進めています。現在人の手で行っている使用済み透明容器の一系列の工程において、AIによる容器の種類識別とロボットアームによる整列・不適品除去作業を導入しようというものです。来期中にはスタートさせ徐々に全国の選別センターへと導入をしていく予定です。リサイクルのキャパシティが増えれば使用済み容器の回収地点をもっと増やすことができるようになりますので、リサイクル事業全体の拡大に繋がっていくでしょう。

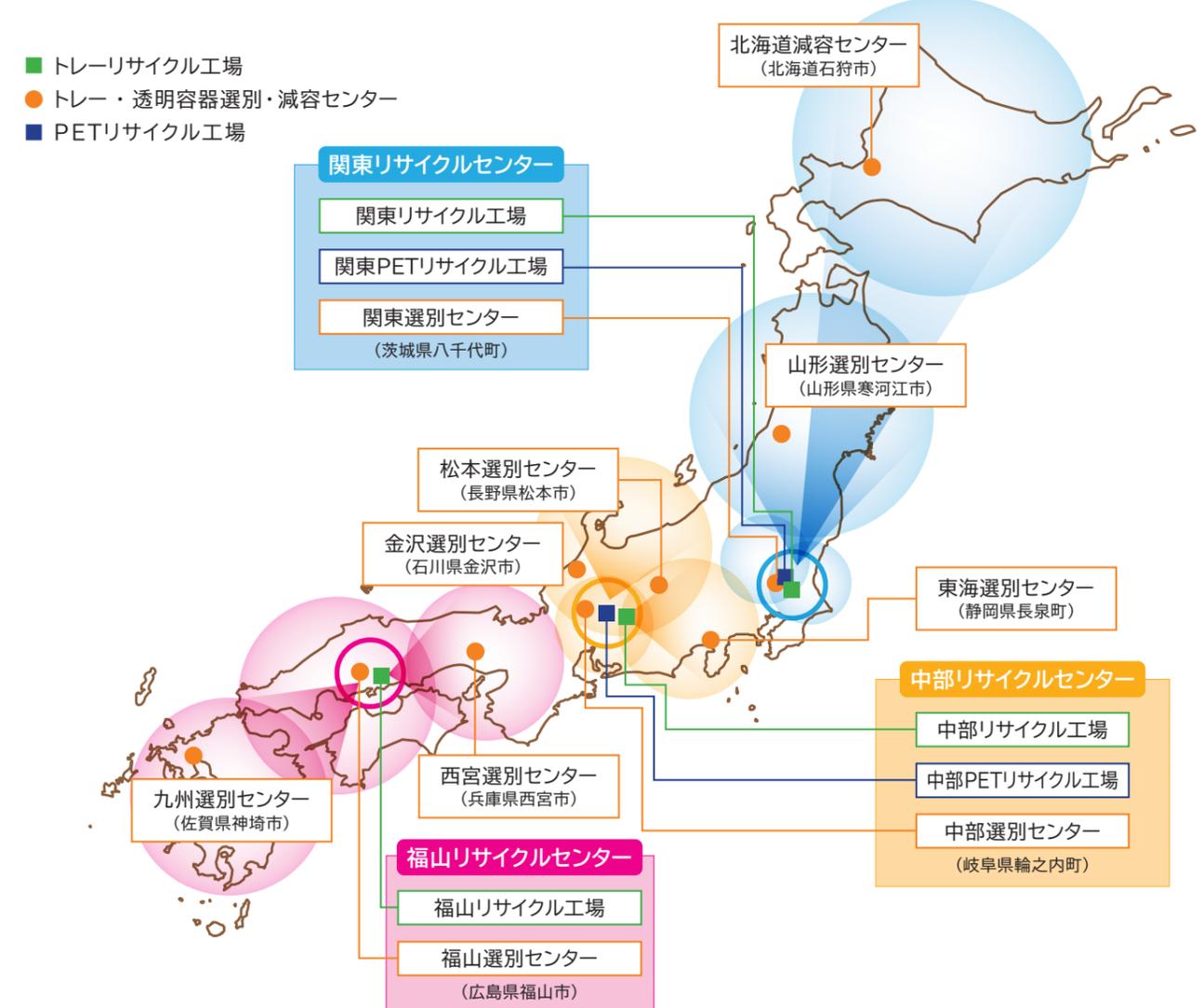


執行役員 リサイクル部ジェネラルマネージャー 兼田 英寿



エコ製品へとリサイクルされるまで

スーパーマーケットなどで回収された使用済み容器は、製品納品後に荷台が空になったトラックを利用して右ページのリサイクル工場や選別センターへと運び込まれます。様々な工程を経てリサイクル素材となり、資源再利用のエコ製品として生まれ変わります。



ESGと事業の運営がほぼイコール。それがエフピコの事業経営スタイルです。



IR活動において、業績に加えてESGの評価が大変重視されるようになってきました。情報開示を積極的に進めることはもちろんですが、投資家の方々との対話においてもエフピコの経営とESGとのかかわりをお伝えするよう努めています。

こうした対話を継続する中で、本業で業績を上げることがESGにも繋がっているというエフピコのビジネスモデルを「ユニーク」と評価頂く声をお聞きします。このユニークさの根底にあるのは、「いい会社にしたい」という我々の思いかもしれません。業績を上げること、環境に配慮することも、働きやすい環境づくりも、すべて「いい会社」に繋がっています。

「エフピコ環境基金」で助成した活動にたくさんの社員が自主的に参加しているのも、そんな思いの表れだと思っています。

専務取締役
経理財務本部本部長
兼 経営企画室管掌
兼 秘書室東京本社管掌
池上 功



「エフピコ環境基金」

エフピコは自らリサイクル活動を行うだけでなく、環境問題に対して様々な角度から活動されている団体を助成しています。



初年度の助成団体活動にはエフピコグループの社員延べ87名もボランティアとして参加しました。



チャウス様



荒川クリーンエイド様



宮島ネットワーク様

2021年3月期の環境基金の助成団体

団体名	所在地	活動内容
特定非営利活動法人 公益のふるさと創り鶴岡	山形県	スポGOMI大会の実施による環境保全活動
特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポートセンター	福島県	障がい者、地域学生などとの協業で実施する農業環境改善活動
特定非営利活動法人 チャウス	群馬県	サケの遡上、放流を通じた環境保全・教育活動
特定非営利活動法人 ななさと	埼玉県	間伐材などのリサイクル活動への障がい者参画支援
一般社団法人ピリカ	東京都	海洋プラスチックの実態調査、流出メカニズムの分析
特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	海洋ごみ問題解決のための荒川清掃体験教育
NPO法人 湘南クリーンエイドフォーラム	神奈川県	神奈川県自然海岸のビーチクリーン活動
特定非営利活動法人 ビーブルズコミュニティ	岐阜県	木曾川のゴミ回収・実態調査と啓発活動
特定非営利活動法人 びわ湖トラスト	滋賀県	琵琶湖のマイクロプラスチックの調査と次世代育成教育
特定非営利活動法人 宮島ネットワーク	広島県	宮島海岸及び島内の清掃活動と海の生態系保護活動

2022年3月期の環境基金の助成団体

団体名	所在地	活動内容
特定非営利活動法人 湘南クリーンエイドフォーラム	神奈川県	神奈川のビーチクリーン活動をワンボイス化プロジェクト
認定特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊	神奈川県	海ごみ削減「急務マイクロプラスチックになる前に海上パトロール時の回収」活動
特定非営利活動法人 チャウス	群馬県	わたらせ川の環境保全・保護活動
特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	石川県	ゴミゼロ河北潟の実現に向けたゴミ発生場所調査と啓発活動
特定非営利活動法人 ビーブルズコミュニティ	岐阜県	環境大好き人づくり(河川周辺クリーン活動・PETボトル回収による啓発活動)
特定非営利活動法人 NPOクワガタ探検隊	大阪府	大都市の里地に甦れ！生命との感動体験(河川周辺クリーン活動)
特定非営利活動法人 宮島ネットワーク	広島県	宮島と周辺の海洋環境の維持と生態系の保全
公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	宮城県	持続可能な社会の創り手を育てる新たな防災・気候変動環境学習の創造
特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	街なかのごみ定量評価と河川/海洋への流出抑制に向けた社会実装に関する取組
一般社団法人 ピリカ	東京都	荒川における河川水中マイクロプラスチック調査の基盤整備
認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト	滋賀県	琵琶湖におけるマイクロプラスチックの調査と子供たちの環境教育の推進
一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会	三重県	学ぼう！行動しよう！未来を担う子どもたちと若者を育てる活動
特定非営利活動法人 ながさきエコネット	長崎県	小学校における持続可能な開発のための教育の実践とカタログ化
一般社団法人 熊本県こども食堂ネットワーク	熊本県	熊本県「農作物版フードバンク」計画。農場でフードロスとなる野菜を収穫し、子ども食堂への提供やドライ加工。

エフピコが実践するESGは国連が提唱するSDGsとも密接に関係しています。事業を継続して推進することが、社会活動に参画し、住みやすく生きがいのある社会の創造をお手伝いすることでもあるという意識をエフピコは持ち続けたいと思っています。



ESG	エフピコグループの重要課題	主な取り組み	対応ページ	貢献するSDGs
E 持続可能な社会の構築	GHG排出量削減	「リサイクルでカーボンオフセット宣言」	40	4 質の高い教育をみんなに
		エフピコ方式リサイクルの拡大	42	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
	資源・エネルギーの効率的な利用	リサイクル工場見学	42	12 つくる責任 つかう責任
		出張講座	42	13 気候変動に具体的な対策を
	プラスチックごみ問題の解決	エフピコの環境方針	41	14 海の豊かさを守ろう
		「エフピコ環境基金」設立	35	15 陸の豊かさを守ろう
S 社会の食のインフラを支える	リスクマネジメント	生産・物流におけるリスクマネジメント	46	2 飢餓をゼロに
		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	46	3 すべての人に健康と福祉を
	安定供給	関西圏における大型生産・物流拠点の新設	47	8 働きがいも経済成長も
		製品供給の全国ネットワーク	48	12 つくる責任 つかう責任
ニーズを捉えた製品開発	迅速な製品開発と販売	45		
G 「いい会社」の実現	コーポレートガバナンス	透明性の高い経営	49	3 すべての人に健康と福祉を
		コンプライアンス研修等の多彩なプログラム	49	4 質の高い教育をみんなに
	働きがいの向上	単身者用社宅「ピコハウス」の整備	50	5 ジェンダー平等を實現しよう
		各種社外活動のサポート	50	8 働きがいも経済成長も
	人材マネジメント	人材育成のための多彩なプログラム	49	10 人や国の不平等をなくそう
		女性の活躍推進	50	16 平和と公正をすべての人に
インクルージョンの推進	障がいのある人材の活躍	51	17 パートナリシップで目標を達成しよう	
	フロアホッケー活動	52		

E nvironment

「リサイクルでカーボンオフセット宣言」

2021年、エフピコは環境負荷低減をさらに拡大するため、「リサイクルでカーボンオフセット宣言」を掲げ、エコ製品の製造・販売による排出削減効果のCO₂の量と事業活動により排出されるCO₂の量をオフセット（バランスさせる）することを目指します。

- 1 使用済みPSPトレー、PETボトルの店頭での回収量増大に向けた啓発活動によりエコ原料の拡大を図ります。
- 2 再生可能エネルギーをリサイクル工場で導入することにより、再生原料をCO₂ゼロで製造することによりエコトレーのCO₂排出量削減効果を高めます。
- 3 エコAPET、エコOPET製品の回収原料比率を高め、CO₂削減効果の増大を図ります。



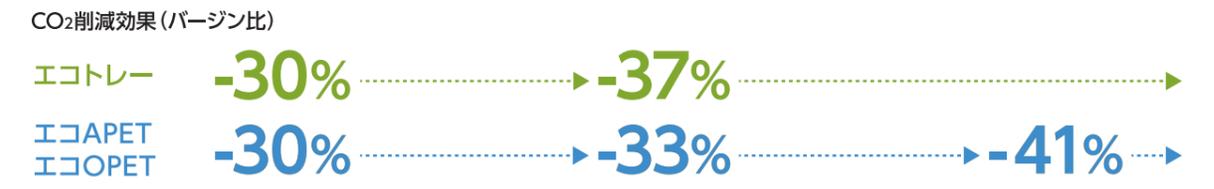
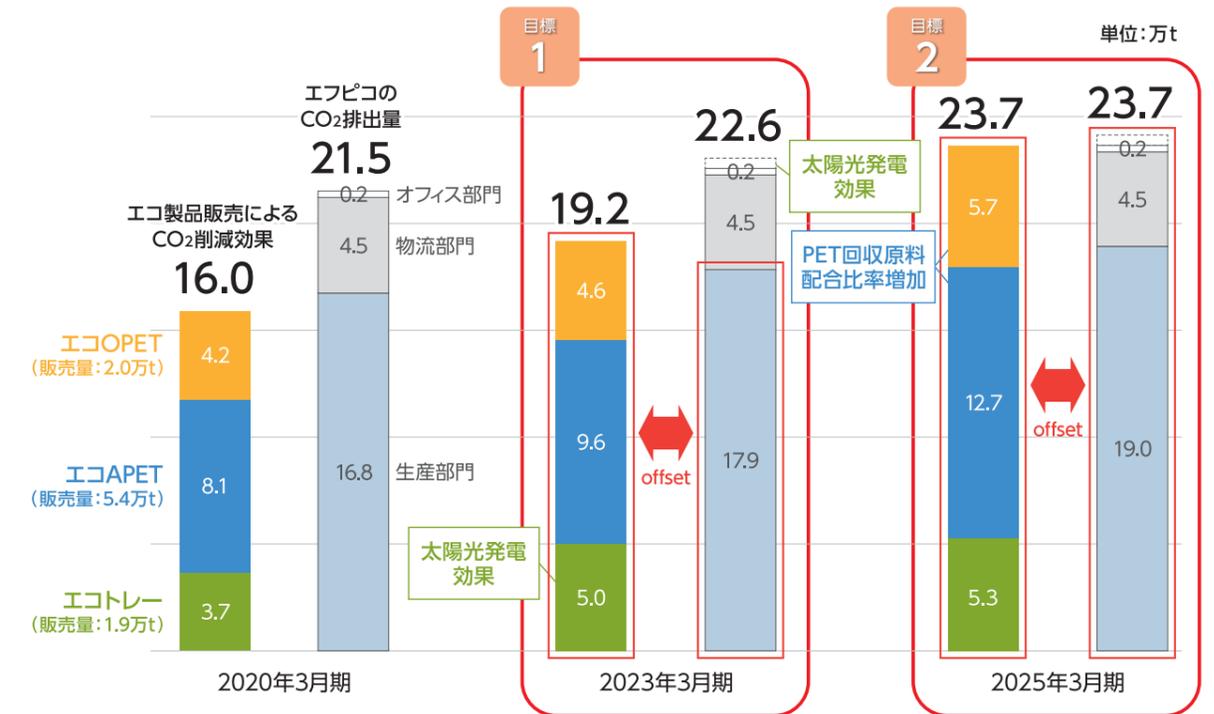
太陽光パネルの設置を予定している（上から）関東八千代・エコペット工場、中部エコペット・中部ハブセンター（2021年10月完成予定）、関西ハブセンター（2022年完成予定）の3拠点。



LiliCoさんを起用した使用済みトレー回収PRポスター

2つの目標

- 目標 1** 2023年3月期までに **19.2万**トン（2020年3月期比+20%）に増やし…生産部門で発生するCO₂排出量をオフセットします
- 目標 2** 2025年3月期までに **23.7万**トン（2020年3月期比+48%）に増やし…全社（生産・物流・オフィス）で発生するCO₂排出量をオフセットします。



E nvironment

エフピコの環境方針

基本理念

当社は地球環境の保全及び保護が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

方針

- 1.CO₂削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化を徹底すると共に、一般家庭から排出される使用済み食品容器を食品容器に再生利用する「エフピコ方式」のリサイクル事業を積極的に拡大し推進する。
- 2.当社に対する法的要求事項等を順守すると共に、ステークホルダーのニーズや期待を理解し、運用に際しては自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 3.環境に影響を与える活動・製品・サービスを考慮した環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査やトップマネジメントによる見直しを通じて評価し、継続的改善を行う。
- 4.効率的な水の利用により、水資源の使用量削減を推進する。
- 5.化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する。



生産部門

見える化による使用電力の削減 / ゼロエミッション / マネジメントシステム導入による効率化 など



製品部門

環境負荷の見える化 / グリーン調達 / 素材変更や薄肉化などによる製品の軽量化 など



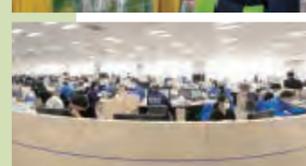
物流部門

製品保管スペースの効率化 / 配送ルートの最適化 / 積載量の最大化 など



販売部門

エコトレーなど環境対応製品の販売 / 回収拠点の拡大 / お客様の協力を得ての消費者啓発 など



オフィス部門

電力や消耗品などの各種環境負荷低減 / 社員の環境意識向上の啓発 など

“ 包材問屋様、物流事業者様、スーパーマーケット様など、これまで30年間に亘りエフピコのリサイクル事業にご協力をいただいた方々に対しては感謝の念しかありません。380社のそうした方々に記念の盾を贈呈させていただきました。一部のスーパーマーケット様では、後の工程が楽になるようにと、集められた使用済み容器を事前に仕分けしてくださるところもあります。今後も共にリサイクルの輪を世界に広げていく決意を新たにしています。

取締役
広域営業統括部
統括マネージャー 佐藤 修



感謝の盾

感謝

『貴社は永年にわたり使用済み食品トレーの回収に携わり4者一体のエフピコ方式トレー to トレーリサイクルを通じて地上資源循環活動に多大なるご協力を頂きました。エフピコ方式のリサイクルが三十周年を迎えるにあたりここに感謝の意を表し記念の盾を贈呈いたします』

令和3年2月吉日
株式会社エフピコ 代表取締役社長
佐藤守正

「感謝の盾」記載全文

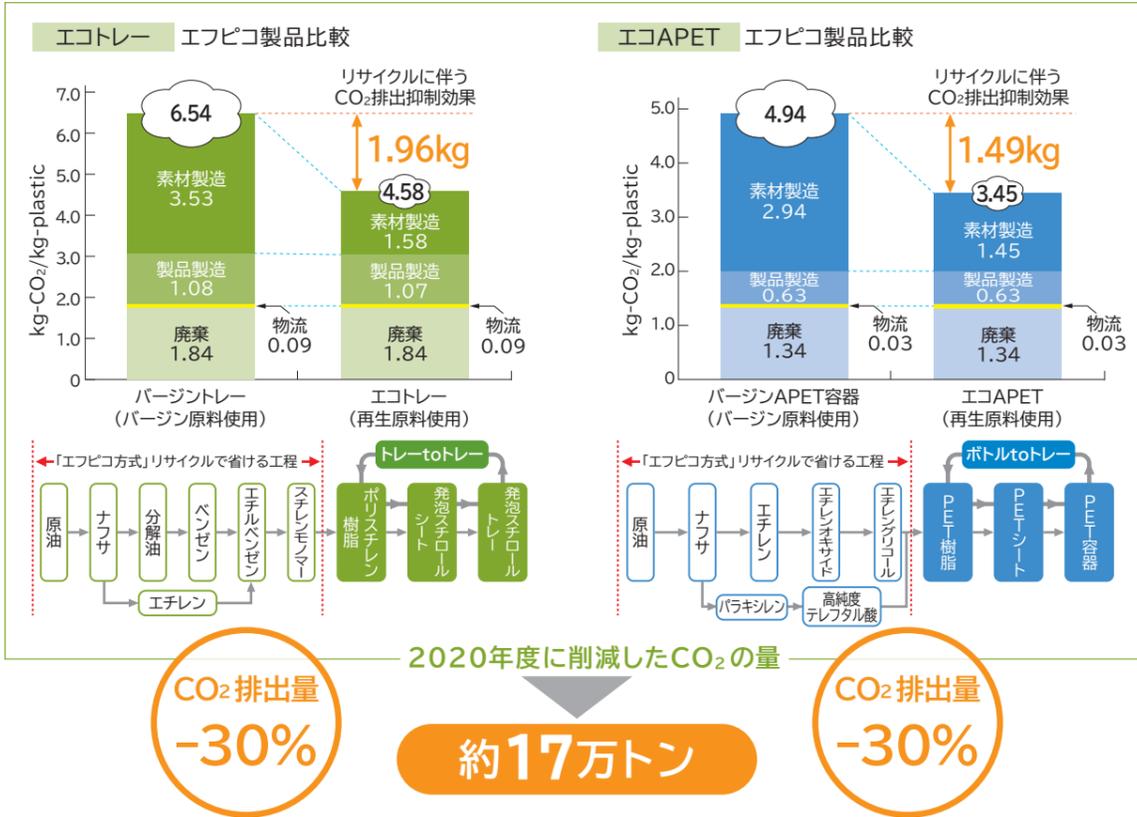
エフピコ方式リサイクルの拡大

エフピコ方式リサイクルの第一歩は、消費者の方々に使用済み容器を回収ボックスに入れていただくことです。30年を超えて継続するこの事業のさらなる拡大を目指し、使用済み容器の回収量を増やすためにスーパーマーケット様との協働、工場見学の受け入れ、出張講座の実施など様々な活動を実施しています。

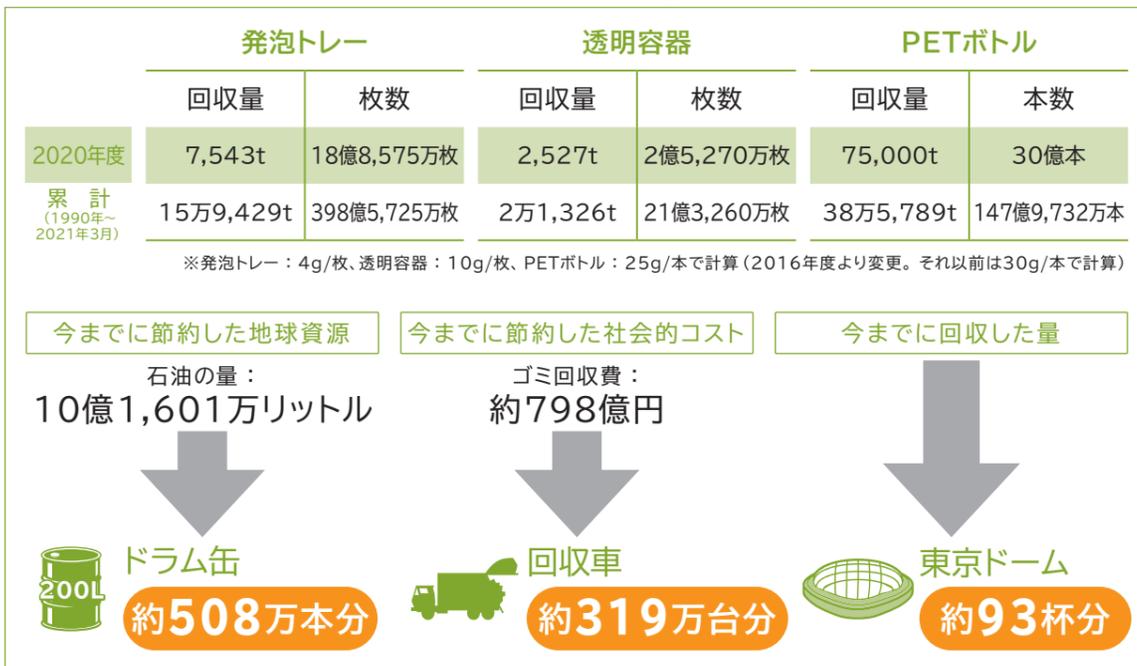


Environment

CO₂ 排出削減の成果



リサイクルの社会的波及効果



気候変動対応に関するエフピコの取り組み

エフピコは調達先や製品及び商品の販売先等のステークホルダーと協働して、低炭素社会の実現をめざし気候変動の課題に取り組みます。取り組み内容については、TCFD*の最終提言を踏まえています。

※TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)は2017年6月に最終報告書を公表し、企業等に対し、気候変動関連リスク及び機会に関する項目について開示することを推奨

TCFD開示推奨項目

エフピコの対応状況

<p>ガバナンス</p> <p>気候変動のリスクと機会に係る組織のガバナンス</p>	<p>社長直轄の環境に関連する専門組織である環境対策室が、CO₂削減に寄与する環境配慮製品の販売状況や回収リサイクルの進捗状況について毎月モニタリングを行っており、環境対策室管掌取締役が気候変動関連課題の管理に責任を負っています。</p>
<p>戦略</p> <p>気候関連のリスクと機会がもたらす組織の事業、戦略、財務計画への現在及び潜在的な影響</p>	<p>気候関連の移行リスク・物理的リスク・機会について、リスク及び機会の分類、内容、可能性、影響の程度、財務上の影響を試算しており、以下のようなリスク及び機会の原因情報について整理しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①気候変動に関連する生産、物流に対する法規制 ②気候変動に関連する当社製品に対する法規制 ③気候変動に関連する当社製品の競合サービス(トレーの不買運動など) ④消費者選好の変化(リサイクル容器への選好、トレーを使用しない販売への選好) ⑤高波や集中豪雨、地震などによる生産拠点への物理的影響の原因となる気候情報 ⑥海洋プラスチックごみ問題への対応
<p>リスク管理</p> <p>気候関連リスクについて、識別、評価、管理するために用いるプロセス</p>	<p>市場調査は営業部門、規制は環境部門等それぞれの分野で情報収集の把握体制を確立させており、重要事項は各部門の担当役員がそろって週一回の役員会で報告・共有されます。</p> <p>評価リスクは主に財務面へのインパクトであり、コスト増、収益減など、財務へのインパクトが大きいものを重視し評価しています。</p>
<p>指標と目標</p> <p>気候関連のリスクと機会を評価及び管理するために用いる指標と目標</p>	<p>ライフサイクル全体のCO₂排出量が30%低減されるエコ製品(エコトレー、エコAPET、エコOPET)の販売量を指標としています。</p> <p>また、CO₂排出量について、当社HP(環境に関するデータ https://www.fpc.jp/esg/esg_data/environment_data.html)に開示しております。</p>

Society

食品の小売店舗以外のお客様もサポート

営業スタッフがスーパーマーケットなど食品販売の現場で様々な情報を得て製品開発に生かすというミクロ的な流れに加え、小売店以外の中食や外食業界も含めた世の中全体の動向を俯瞰的に見て考えるというマクロ的な視点も持つ『マーケティング部』は、ファミリーレストランなどの外食産業がテイクアウトやデリバリーを展開する時などにも支援を行います。食品販売の形態が多様化している現在の状況に合わせ、包装資材ECサイト「バックマーケット」で製品供給ができる体制を構築しています。



迅速な製品開発と販売

コロナ禍において人々の食のライフスタイルが急激に大きく変化しました。それに伴い、食品容器にも新たな機能が求められました。これに対して製品開発部を中心として営業スタッフからのリクエスト、生産工場のメンバーを加えての検討、製品の設計、製造までの工程をシームレスに実行する設計・生産体制を構築しています。短時間でお客様の要望に応え、迅速に対応することも食のインフラを支えるエフピコの価値創造のひとつです。



生産・物流におけるリスクマネジメント



全国21カ所の物流拠点には72時間の電力供給が可能な自家発電設備を配置し、自然災害などの非常時に備えています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止

■対策

エフピコグループでは株式会社エフピコ代表取締役社長 佐藤守正を本部長とする「エフピコグループ新型コロナウイルス感染症対策本部」を2020年2月21日に立ち上げ、検温・消毒・手洗いなどによるグループ内における感染症予防の徹底、時差出勤やテレワーク勤務などの施策を推進しています。在宅テレワークについては2020年8月に策定したテレワークガイドラインに基づき、適正な労働管理の下、時差出勤を含む出社との最適な組み合わせにより生産性の維持向上を図っています。

■食品容器供給責任の遂行

エフピコ独自のサプライチェーン・マネジメントシステムを着実に遂行し、皆様の安全・安心な食生活を支えるという使命感を持って日々の業務を行い、コロナ禍においても必要とされる製品を必要とされる時に確実にお届けいたします。

全国の子ども食堂への寄贈

2020年5月以降、NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ様がサポートする全国の子ども食堂運営団体に弁当容器と汁物容器を約30万食分、さらに12月には三層マスク40万枚を寄贈しました。コロナ禍で活動が困難な中、様々な工夫をしながら子どもたちを支える活動を続けている団体への支援を通して地域に貢献するとともに、サステナブルな社会の実現に取り組んでいます。





「エフピコはこれまで安定的な製品の供給を続けてきました。大きな自然災害の発生やコロナ禍でもそれは変わっていませんし、人手不足などの社会構造の変化でも安定供給は変わりません。来年、兵庫県で稼働予定の新たな生産・物流拠点は、その安定供給をさらに持続させていくための計画の一環です。関西の大きな商圏への製品供給を同じ圏内で行うことにより、物理的な利点が数多く生まれます。」

常務取締役
生産本部副本部長東地区担当
柘山 巖

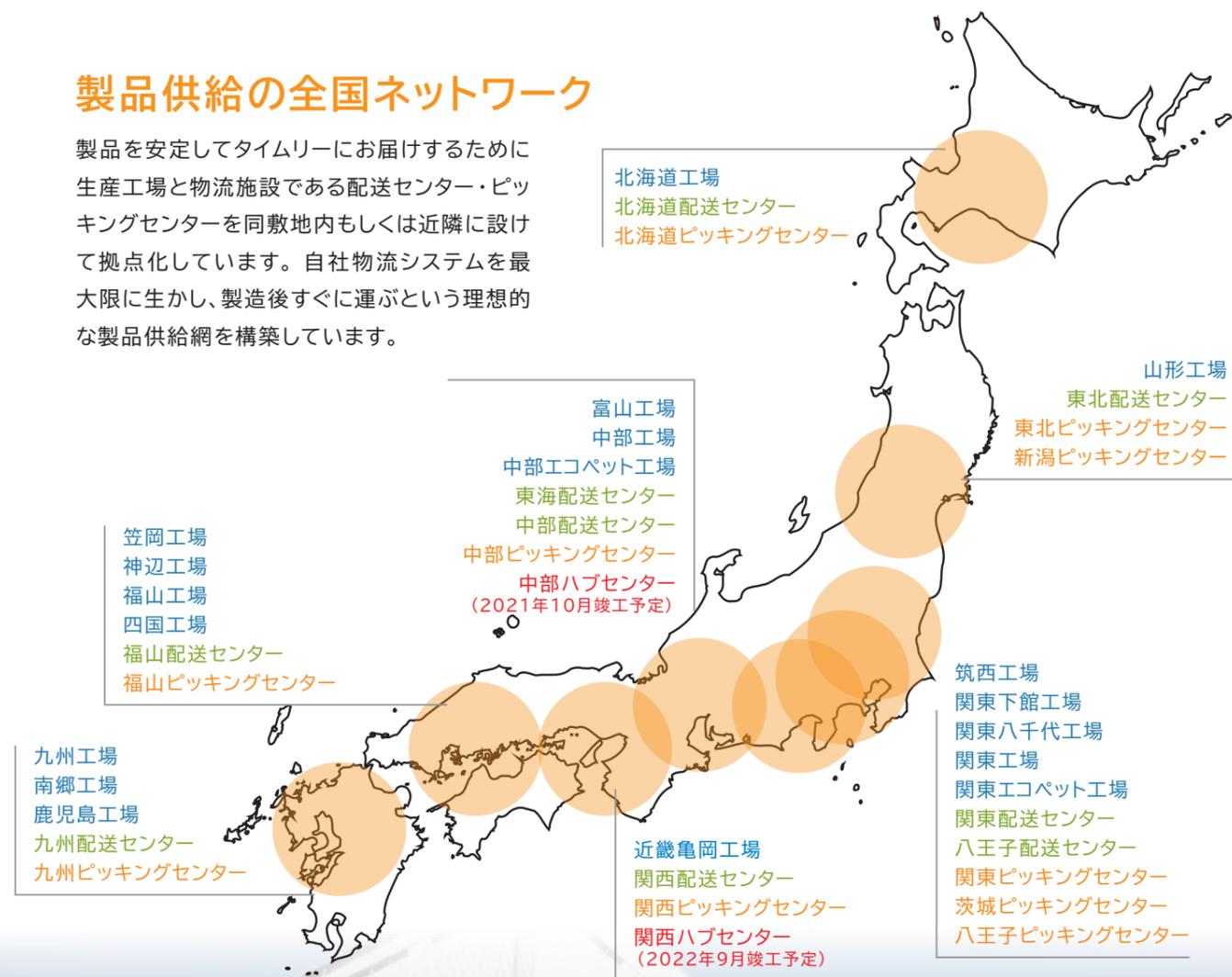
関西圏における大型生産・物流拠点の新設



2022年、兵庫県小野市に敷地面積約48,000㎡の新しい生産・物流拠点を新設します。現在ある関東、中部、福山の3つの大規模拠点到並ぶ4つ目の拠点が関西エリアに誕生します。これにより新拠点を含む日本全国9カ所の拠点配送センターから半径150km圏内で、主要都市を含む全人口の7割をカバーできる物流ネットワークが完成します。

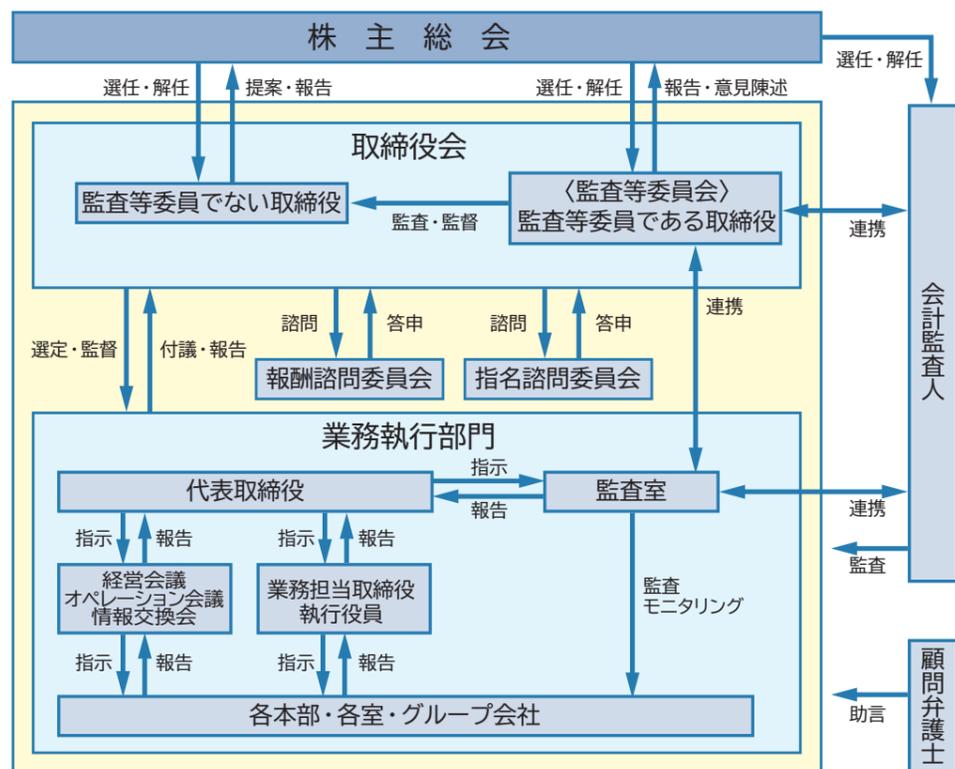
製品供給の全国ネットワーク

製品を安定してタイムリーにお届けするために生産工場と物流施設である配送センター・ピッキングセンターを同敷地内もしくは近隣に設けて拠点化しています。自社物流システムを最大限に生かし、製造後すぐに運ぶという理想的な製品供給網を構築しています。



組織運営体制図

エフピコでは監査等委員会設置会社を選択し、独立社外取締役及び社外取締役で構成される監査等委員会が経営監視を行う透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。



コンプライアンス・人材マネジメント

共に会社を発展させていくため、共に人として成長していくため、人材を育てるための様々なプログラムを実施しています。また新たに「顧客心理に基づく商談スキルマスタープログラム」を開発し、2020年8月にトライアル研修を実施しました。

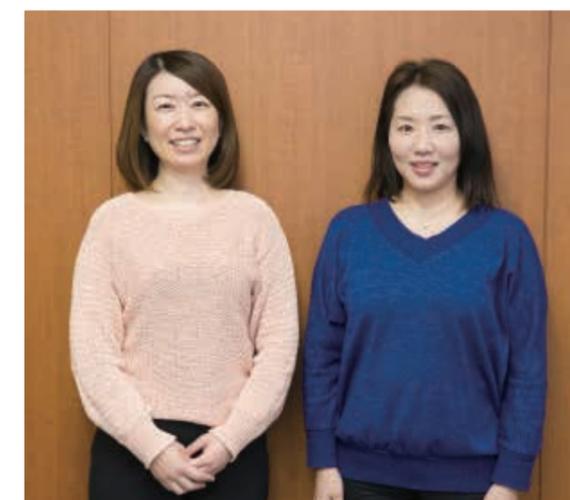
コンプライアンス研修	マンツーマンリーダー研修会
次世代研修	異業種研修会
業務改善研修	安全講習会
ワークライフバランス支援	女性の活躍推進
ダイバーシティの浸透	最長65歳までの選択式定年延長の導入

“エフピコでは多様な人材が働きがいを持っていきいきと活躍するための取り組みを推進しています。障がいのある社員の雇用や女性の活躍推進もその一環です。特に女性の管理職の登用については、2022年までに女性管理職を50人にする（2021年4月時点で38人）という目標を立て、様々なプログラムを実施しています。また自己啓発支援制度により社員の自律的な能力開発を応援しています。今後とも多様な人材がエフピコで働く喜びを感じながら能力を発揮していくための取り組みを強力に推進してまいります。”



常務取締役 総務人事本部管掌
兼 特例子会社・就労継続支援A型事業管掌
兼 環境対策室管掌
兼 法務・コンプライアンス統括室管掌

西村 公子



福利厚生

多様な人材に働きがいを持っていきいきと活躍してもらうため、職場を離れたシーンで心身をリフレッシュできる環境や機会を整備・提供しています。



単身者用社宅「ピコハウス」は全国に4棟あり家具付き仕様になっています。



社員による各種レクリエーション活動には補助金が提供されます。写真はバドミントンサークル「FPシャトルズ」。



エフピコグループ各社に在籍10年以上の社員が参加するハワイ研修。毎年恒例の行事です。写真は2019年のもの。

障がいのある人材の活躍

1986年にスタートした障がいのある人材の雇用は35年の歴史があります。特例子会社のエフピコダックス(株)と就労継続支援A型のエフピコ愛パック(株)の二つのグループ会社で活躍しています。



エフピコダックス(株)

エフピコの特例子会社として厚生労働大臣から認定を受け、全国規模で事業を展開。

エフピコ愛パック(株)

営利法人として初の障害者総合支援法による就労継続支援A型の認定事業所。



1986年に(株)ダックス(エフピコダックスの前身)が誕生した時。



折箱容器の製造。



使用済み容器の選別作業。

障がいのある社員の雇用状況【エフピコグループ】

2021年3月時点

障がいのある社員数	362名
内訳	身体障がい 34名(うち重度13名) 知的障がい 323名(うち重度 ^(注1) 246名) 精神障がい 5名
雇用率換算数 ^(注2)	618.5名
障がい者雇用率	12.7%

(注1) 職業判定上の重度を含む

(注2) 重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人数



インクルージョン



エフピコでは知的障がいのある人を対象としたスペシャルオリンピックスの正式競技でありユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動を行っています。障がいのあるなしにかかわらず交流することを目的に11年前に



スタートしました。現在では健常者と障がい者の混成チームで全国9拠点13チームが活動しています。さらに全日本競技大会、西日本競技大会の sponsor として支援を行っているとともに、大会の運営ボランティアとして多くの社員が積極的に参加しています。

「エフピコアリーナふくやま」オープン

エフピコがネーミングライツを取得した福山市総合体育館「エフピコアリーナふくやま」が2020年3月にオープンしました。メインアリーナは全国大会の規模に対応する最大収容人数5,000人を誇り、サブアリーナ、武道場、トレーニングルームや多目的ルームも備えた総合施設です。さらにアリーナの前には大きな芝生の公園と大型遊具を設置した遊び場もあり、この施設のコネクトである「すべてのひとに開かれたにぎわいの場」を具現化した福山市活性化の新たなシンボルです。



人材データサマリー

従業員の構成 (2021年3月末現在)	男	女	合計
従業員数	640	304	944
平均年齢	43.9	34.3	40.8
30歳未満	112	120	232
30～39歳	124	96	220
40～49歳	176	68	244
50～59歳	176	16	192
60歳以上	52	4	56
勤続年数	15.2	10.4	13.6
連結従業員数	3,639	1,114	4,753
外国人従業員数	0	1	1

離職者数	早期	自己	会社	転籍	その他	合計
2020年度	0	16	0	1	0	17

新卒入社者の定着状況	男	女	合計
2018年4月新卒入社者数	17	26	43
2021年4月在籍者	16	25	41

管理職に占める女性比率	女	男	女性比率
	28	371	7.0

障がい者雇用	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
実人数 (人)	377	359	358	362
障がい者雇用率 (%)	13.78	13.6	13.3	12.7

ワーク・ライフ・バランス	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
有給休暇取得率 (%)	39.5	51.7	53.6	49.3
一人あたり月平均残業時間	18.9	10	9.8	8.0
産休取得者数 (人)	17	25	25	12
育休取得者数 (人)	22	16	28	15
育児休業復帰率 (%)	86.7	100.0	92.3	96.0

環境データサマリー

製造部門2020年度データ

INPUT	エネルギー	電力	381,374,938kwh
		化石エネルギー	84,338,186MJ
	水資源	上水	528,711m ³
		地下水	164,016m ³
		工業用水	97,416m ³
	原料 (樹脂類他)		204,476t
	副資材	段ボール	38,922t
		包装ポリ	3,386t
	その他	潤滑油	8,639L
		シンナー	51,336L
紙		2,425,500枚	

OUTPUT	製品	製品生産重量	206,057t	
		出荷トラック台数	163,946台	
	廃棄物		26,495t	
		環境汚染物質	煤塵	73Kg
			NOx	5,338Kg
			BOD	8,494Kg
			COD	3,218Kg
SS	1,243Kg			

物流部門2020年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	18,690,552kwh
	化石エネルギー	2,647,594MJ
水資源	上水	26,324m ³
その他	紙	9,268,421枚

OUTPUT	
廃棄物	483t

オフィス部門2020年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	3,867,753kwh
	化石エネルギー	7,596MJ
水資源	上水	7,596m ³
その他	紙	4,184,000枚

OUTPUT	
廃棄物	383t

財務サマリー

回次		第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月		2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月
売上高	(百万円)	172,858	173,580	181,171	186,349	196,950
経常利益	(百万円)	15,742	13,548	14,861	16,274	19,381
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	10,953	9,178	9,901	10,777	12,211
包括利益	(百万円)	11,440	9,806	9,332	10,461	13,021
純資産額	(百万円)	99,721	106,219	112,198	119,301	124,980
総資産額	(百万円)	219,481	244,147	249,332	242,497	247,234
1株当たり純資産額	(円)	1,201.76	1,280.09	1,351.67	1,436.07	1,520.60
1株当たり当期純利益金額	(円)	132.43	111.01	119.75	130.36	147.80
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	45.3	43.4	44.8	49.0	50.3
自己資本当期純利益率	(%)	11.5	8.9	9.1	9.4	10.0
株価収益率	(倍)	19.6	31.4	27.3	27.5	30.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	25,912	13,974	25,510	27,770	31,814
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△21,932	△23,656	△17,109	△10,989	△19,131
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△924	△7,197	△4,908	△15,643	△15,086
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	18,144	15,659	19,151	20,288	17,884

※1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

※2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

※3 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、55期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり当期純資産を算定しております。

年表

- 1962 福山パール紙工株式会社設立。広島県福山市古宮町（現在の霞町）に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
- 1972 福山配送センター（広島県福山市）を開設、以後各地に配送センターを設置
- 1976 自社製品の展示会「パールフェア（現エフピコフェア）」第1回目を開催
- 1979 配送体制強化のためエフピコ物流（株）を設立
- 1981 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
- 1983 東京支店（東京都練馬区）を開設
- 1985 大阪支店（大阪府大阪市）を開設 / 関東工場（茨城県八千代町）稼働、以後各地に生産工場を設置
- 1989 CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める / 広島証券取引所に株式上場
- 1991 大阪証券取引所市場第二部に株式上場
- 1997 代表取締役社長（当時）小松安弘が『藍綬褒章』を受章
- 2000 特例子会社（株）ダックス四国本社工場（高知県南国市）を竣工、以後各地に特例子会社の事業所を設置 / 東京証券取引所市場第二部に株式上場
- 2001 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
- 2003 東日本ハブセンター（茨城県八千代町）完工
- 2005 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
- 2006 就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛パック（株）（現エフピコ愛パック（株））設立、以後各地に愛パックの事業所を設置
- 2012 PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
- 2013 代表取締役会長小松安弘が『旭日重光章』を受章
- 2014 福山クロストックセンター稼働（広島県福山市） / エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工（広島県福山市）
- 2015 経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出 / 経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定 / 経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞（製品・技術開発部門）」優秀賞受賞
- 2016 代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
- 2017 創業者 小松安弘永眠
- 2018 エフピコアルライト本社工場竣工 / 広島営業所新社屋竣工 / 平成30年度「スポーツエールカンパニー」認定（スポーツ庁）
- 2019 第一回ジャパンタイムズESGアワード ESG部門優秀賞受賞
- 2020 福山市総合体育館のネーミングライツを取得した「エフピコアリーナふくやま」オープン



世の中の動き

- 1960年代 東京オリンピック開催
- 1970年代 大阪万博開催
オイルショック
- 1980年代 ファストフード・コンビニエンスストアの発展
インターネットの始まり
- 1990年代 消費税導入
バブル経済崩壊
容器包装リサイクル法施行
京都議定書採択
循環型社会形成推進基本法
- 2000年代 3Rイニシアティブ提唱
容器包装3R推進環境大臣賞創設
- 2010年代 エコ・ファースト制度スタート
東日本大震災
エコマークアワード創設
Fun to Shareキャンペーンスタート
マイナンバー制度運用開始
- 2020年代~ 消費税が10%に
働き方改革関連法施行

エフピコの環境関連事業・成果など



1980 トレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する

1990 エフピコ方式のリサイクルスタート



1991 「エコトレー」が業界初のエコマーク認定

1993 (財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞



2007 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞

2011 「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞 / 環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける / 再生PET容器「エコAPET」が(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得

2015 地球温暖化防止活動環境大臣表彰（対策活動実践・普及部門）受賞

2016 PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働

2017 関東エコペット工場稼働

2018 「G20イノベーション展」に出展

2019 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」に幹事として参画

2020 「エフピコ環境基金」設立

〈リサイクル事業の変遷〉



環境関連

社会に広く浸透したエフピコのリサイクル事業は国や自治体、関係団体などから高い評価を受け続けてきました。また、これらの機関・団体が展開する様々な環境保全に関する運動やプロジェクトにも積極的に参加しています。



エコマークアワード
第1回金賞受賞



エコファースト企業制度
認定



ESGインデックス

環境・社会・企業統治 (ESG) に対して優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを反映するインデックスに継続して名前を連ねています。(2020年6月時点)

<p>FTSE4Good</p>	<p>FTSE4Good Indexは、世界主要企業約3,000社を対象とするESG評価に基づき発表されている指標。ESG（環境・社会・ガバナンス）のグローバル・スタンダードを満たす企業への投資を促進するようデザインされた株式指数シリーズ。</p> <p>世界の1,075社の中の1社がエフピコ ※「FTSE4Good Developed Index」構成銘柄数</p>
<p>FTSE Blossom Japan</p>	<p>ESGについて優れた対応を実践している日本企業のパフォーマンスを測定するために設計された指標。業種の比率が日本の株式市場と同等になるように構築され、銘柄の組み入れはSDGsを含む既存の国際基準を基に作成されたルールに基づく。</p> <p>日本の196社の中の1社がエフピコ</p>
<p>2020 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)</p> <p>女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から同スコアの高い企業を選別して指数を構築。「FTSE Blossom Japan Index」同様、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が選定するESG指数の一つ。</p>	



環境対策に携わる者としてしばしば感じるのですが、リサイクルの現場やそこに携わっている方々の毎日の活動を知れば、きっと誰もが「自分ももっと関わってみたい」と思っていたのではないでしょうか。環境保全活動に参加したいと思いながら、何もしていないという方はたくさんいるでしょう。でもそれは、最初の一步を踏み出すきっかけがなければなりません。エフピコはこれからも“きっかけづくり”に奔走し続けます。このレポートをご覧いただいた皆様の最初の一步を期待しております。

「エフピコレポート2021」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

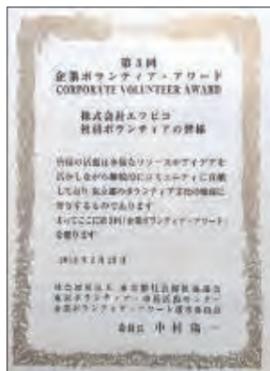
2021年6月
環境対策室 ジェネラルマネージャー
富樫英治



国、自治体、各種団体からの表彰、認定



スポーツエールカンパニー認定



企業ボランティアアワード



東京都「心のバリアフリー」
サポート企業

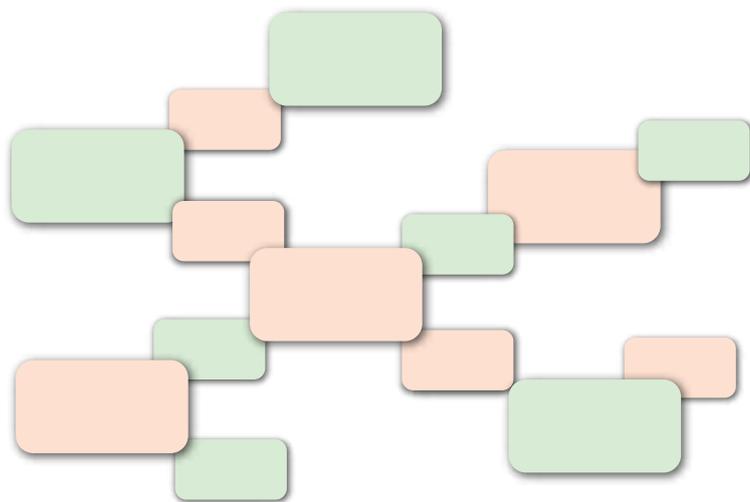


2014年度「ダイバーシティ経営企業100選」（経済産業省）に選ばれました。容器製造やリサイクルの現場において、障がいのある人材が活躍し、それが企業全体の価値につながっている、ということが評価されました。

エフピコレポート2021
発行日：2021年6月

編集方針
エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。
CSRIに関するレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年）」を参考にしました。
対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日
対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

制作部門・問い合わせ先 株式会社エフピコ 環境対策室
〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オクタワ（総合受付36階）
TEL 03-5325-7809 FAX 03-5325-7811 E-mail: Env-FP@fpco-net.co.jp ホームページ: <https://www.fpco.jp/>



FPCO Report 2021



株式会社エフピコ

福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15

TEL (084) 953-1145

東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 36F

TEL (03) 5320-0717

大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F

TEL (06) 6441-2468

営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

■ホームページ <https://www.fpc.co.jp/> ■eメール Env-FP@fpc-net.co.jp

